

浄

monthly JODO 土

2014  
October

10

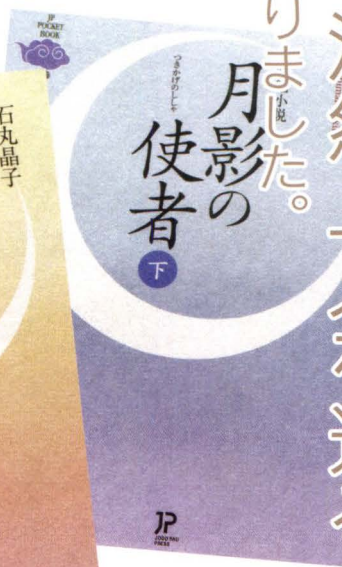
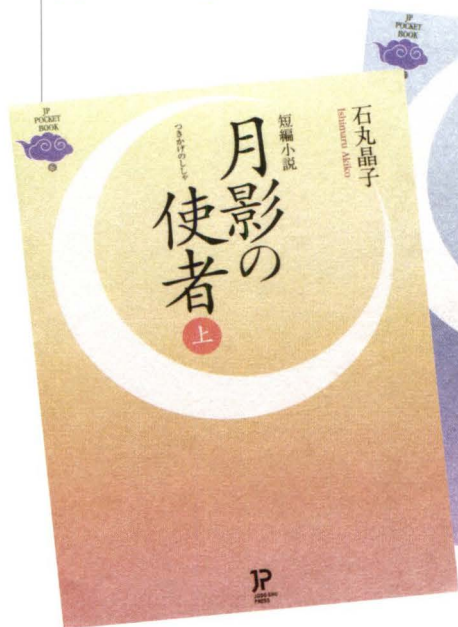


石丸晶子先生の

本誌連載小説『法然上人を巡る人々』が

文庫本となりました。

ほとけの  
慈悲は  
いつの世にも、  
誰のもとにも



法然。その光に出逢い、闇をこえ、  
“あたらしいいのち” に生きた  
貴族、武士、庶民たちの物語

## 月影の使者 上下

●浄土宗出版 上下巻とも本体730円＋税

【問合せ・お求め】 浄土宗出版

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4

TEL: 03-3436-3700 FAX: 03-5472-4878 <http://press.jodo.or.jp/>

# 紀行 寺院

寺院紀行

寺に歴史あり  
人々に信仰あり  
日本の  
心の故郷を紀行する

寺院紀行特別編

ど  
ん  
り  
ゅう  
う  
呑龍上人  
海をわたる



行行寺に遷座された呑龍上人木像。  
小笠原の藍色の海原で海鳥が迎えてくれた





行行寺内陣。阿弥陀如来の下に  
安置された吞龍上人御分影木像



小高い丘の山腹に建つ行行寺本堂



太田の大光院で開眼供養された吞龍上人御分影木像

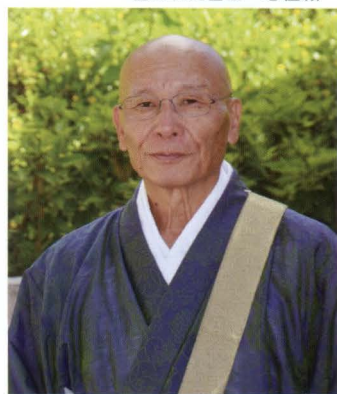


大光院からの許可証を持つ石田顧問、  
手前が桑原会長、奥が池田副会長



遷座法要で御分影木像に開眼供養する吉田一心住職

夜明山一心院行行寺を開山された吉田一心住職



挨拶で吞龍上人の魅力語る桑原恒久会長



開式の挨拶をする石田祐寛顧問



維那を務めた吉田真典監事



司会をされた池田常臣副会長



吞龍上人の末裔にあたる井ノ上俊雄氏





法要後にみんなてにこやかに記念撮影。お母さんと子供も嬉しそうだ



世界自然遺産に登録されている小笠原諸島の美しい自然



小笠原諸島への唯一の交通手段となる小笠原丸。片道25時間半かかる

撮影／真山剛

# 浄土

2014/10月号 目次

|         |                  |              |    |
|---------|------------------|--------------|----|
| カラーグラビア | 吞龍上人海をわたる        | 真山 剛         | 1  |
| 目次      |                  |              | 5  |
| 連載      | 法然上人のお言葉⑥        | 梶村 昇 英訳 河西良治 | 6  |
| 講演概録    | 仏教の基本思想          | 佐々木閑         | 8  |
| 寺院紀行特別編 | 吞龍上人海をわたる        | 真山 剛         | 18 |
| 連載      | 響流十方             | 林田康順         | 28 |
| 連載      | 友好の絆             | 森 清鑑         | 32 |
| 連載      | 蓮門句会（十夜会）        |              | 37 |
| 連載      | 会いたい人 片岡秀太郎さん（下） | 関 容子         | 38 |
| 連載      | 誌上句会             | 選者＝増田河郎子     | 48 |
| 連載      | マンガ さっちゃんはネッ     | かまちよろう       | 51 |
| 編集後記    |                  |              | 52 |

表紙・【花写】芝崎純子 陶芸家 浅井竜介 撮影 keizo.S

背表紙裏＝泰雲の美味探訪



表紙題字＝中村康隆元浄土門主

アートディレクション＝近藤十四郎

協力＝迦陵頻伽舎

# 法然上人の お言葉

## ご法語

悪を造る身なるが故に念仏を申すなり。悪を造らん料に念  
仏を申すに非ず。心得べきなり。

現代語訳—どうしても悪をしてしまう身なので念仏を称えるのであって、悪を  
しても大丈夫なようにと思つて念仏を申すのではない。心得違ひをしてはな  
らない。

### Honen Shonin's Sayings

You recite the nembutsu since you cannot but do evil things by nature. It is not the case that you recite the nembutsu in order to be saved safely even if you do evil things. You should never have such a mistaken idea of the nembutsu.

## 解説

私たちは、理屈によって物を考えたり、行動したりしていることが多くあります。

理屈、宗教でいえば、教学といつてよいと思うのですが、それは自分を凝視することから生まれてくるものでしょう。それが逆になつて、結果として生じた教学によって動かされるということですね。この法語は、それを戒めているのだと思います。はつきり言えば、この人は、己を顧みるということよりも、教学の人間論を先行させているということだと思います。

### Commentary

We very often think and act according to our theories. A theory, from the religious point of view, can be said to correspond to "kyogaku", that is, religious education and learning. A theory is supposed to originate from the careful study of our own selves. In the wrong way, however, a theory attributable to such a self-reflection can be a driving force behind our thought and action from the beginning. The saying quoted above, I think, warns those people not to have such a wrong-headed view. To put it plainly, they give priority to a theory about humans depending on religious learnings over reflecting on their own selves as they are.

梶村昇

亜細亜大学名誉教授

英訳…… 河西良治 中央大学文学部教授

平成二十六年六月二十七日 法然上人鑽仰会主催講演会

# 仏教の 基本思想

釈尊から始まる(一)

花園大学教授

佐々木 閑



## 仏教の多様性

日本の禪宗には三派ありまして、臨済宗、曹洞宗そして黄檗宗の三つですが、花園大学はそのうちの休さんで有名な臨済宗の大学です。

ただ、私自身は、生まれは浄土真宗の寺の長男であり、今でもその住職を兼ねております。しかし専門として教えているのは禪でもなく、浄土真宗でもなく、お釈迦様の時代の古い仏教でございます。

今日はそういう中で、仏教の本質的なところ、それから魅力、そして、何が我々に仏教を引きつけている要素なのかということもお話していきたいと思えます。

さて、それではまず少しずつ、仏教についてご紹介をしてまいりましょう。日本におりますと、もちろん私たちの周りには仏教があふれております。さまざまな面で仏教にかかわっているし、恐らくここにおられる方はどこかのお寺の檀家さんというような形で、仏教の世界の一員であるというふうに思われます。

したがって、日本にいれば仏教は幾らでも触れることができますが、ただ問題は、日本にいて触れることができる仏教は日本仏教だけだということです。

もし世界の仏教が全部日本と同じ形であるならば、私たちは日本にいてだけで仏教がわかりますということが言えるのですが、そうではないことは皆さんご存じのとおりで、海を渡ってほかの国へ行けば、また全然違う形の仏教があるのです。

一番いい例は、タイやスリランカ、東南アジアのお坊さまですね。あの姿を見れば、それはもう当然、日本の仏教とは本質的に違うのではないかということがわかります。チベ

ットへ行けばチベットの仏教があり、韓国や台湾のお坊さんたちを見ただけでも、日本とは違うということがわかります。

このように、仏教は多種多様ですが、その多種多様な仏教は釈迦という一人の人物から出てきたということは間違いないことです。したがって、起源は一つです。

それが今見ると、ものすごく広がっているということですから、当然それは時代とともに、時間とともに仏教は枝分かれをし、多様化していったということが言えます。

これは、例えていいますと、生物の系統樹と同じようなもので、恐らくこの世の中に最初の生物というのがどこかにあらわれたのでしょうか、私は知りませんが、海の中で細胞が一つできたのでしょうか。DNAかRNAか何かからできたのでしょうか。それが元となって、枝分かれをして、それが今の生物世界をつくっていったのだということになると思います。

そこで、こんなことはどうでしょうか。「生物とは何か」という質問があったとしたら、そして、生物とはその最初の生命体が現在に至るまでの多種多様な生命が枝分かれをしている系統樹の全体であるといった場合に、生物とは何ですかという質問に対して正確に答えようがないのです。「生物とは系統樹です」と、それはわかるけれども、そんなことを言ったって答えになりません。

これはこうで、こうなんですと取り上げてみても、それは全体の中の一部を語るにすぎないのであって、したがって、実を言いますと、「生物とは何か」という質問に対して、言葉で答えることはできないのです。幾ら言葉を尽くしても、その系統樹を全部語ることは絶対不可能です。

では、生物というものについて説明はできないのかというと、それはできます。それは、生物のどの部分をどういうふうに語るのかというふうに、語る世界を限定して語れば、一つ一つを見ていくことができます。それから、一つ一つの細かい情報は無視して、全体を大枠に語ることもできます。

そして、その生命とは何だということに答える最後の最終的な答え方は何かといったら、私の頭の中に今入っている生物の系統樹のイメージそのものを、皆さん方の頭の中に伝えることができるかどうかということです。そして、それは、言葉では無理ですが、しかし言葉を使わなければ、ほかに方法はないのです。

実は、仏教もこれと同じ状態にあります。釈迦という一人の、つまり最初の細胞です。この釈迦という一人の人がつくった仏教が二千五百年の歴史の中で、全体として立体的な系統樹をつくっております。

仏教は立体的になりますから、3Dですね。そして、今二〇一四年でスパッと切りますと、その系統樹は二〇一四年の断片ができます。それが現在の仏教の姿で、浄土宗があり、浄土真宗があり、いろいろな宗教があります。

だから、仏教のとらえ方はいろいろあるのです。二〇一四年で横に切ったものを語ることもできます。それは、例えば「今の日本には」、「今の世界には」、「という話になります。そして、時間をたどることもできます。例えば、浄土宗という宗派をとったら、それを過去に逆上ってゆき、法然上人まで行きます、というふうに、それをここにつなぐことができます。しかし、全体を確実に正確に語ることが絶対できません。

皆さんに了解してもらいたいのは、仏教とはそういう世界でありますから、いろいろな

ことを、私からも、いろいろな先生方からも、仏教とはこうだ、仏教とはこうだと言われますが、一つ一つがこの自分の頭の中に系統樹をつくっていくためのステップだというふうに理解していただきたいと思います。

ですから、先生が言ったことが丸々、それで仏教がわかりましたということは絶対ないのであって、皆さんの頭の中に積み上がっていったときに、もしその系統樹が頭に浮かぶようになったとしたら、これが仏教を理解したということになるわけです。

きょう皆さん方にお話をしたいのは、そのうちの一番大本のところから、やや広がっていくところです。私の専門のお釈迦さまを中心としたことで、私の話はそこだけです。

ですから、きょうの私の話を聞いて、これが仏教だなんて言ったらだめです。これは釈迦の時代の話であり、仏教はそれだけではないということも理解しておいていただきたいと思います。

## 最初の形

さて、それでは具体的なお話をしましょう。まず、仏教がこの世にあらわれるとき、最初の形を理解するためにはどうしても、仏教がこの世にあらわれるより前の世界を理解しておかなければなりません。

それはなぜかというと、なぜ仏教がこの世にあらわれたのかを知るためには、仏教があらわれてこなければならなかった状況を知らないといけないからです。

これは、例えばお釈迦様の伝記などを読みますと、よくある本には、お釈迦様は釈迦族の王子として生まれたけれども、人生の無常、世の中の無常というものを理解され、

そしてある日、馬に乗って出家をされた。そして、厳しい修行のあと、菩提樹の下で悟りを開いた。そして仏教が生まれた。その後、四十五年の間、人々にその教えを広め、最後はクシナラーの村でお亡くなりになったとあります。

これは正しいのですが、一番肝心なところが今の話には全然出てきません。それがわからなければ、仏教の基本というのはいらないのです。つまりなぜ仏教が起こってきたのかということがわからないのです。

それを知るためには、仏教の前のことを知らなければなりません。仏教の前にはもちろん仏教はないですが、インドですから、当然、仏教の前に別の宗教が既に存在しているわけです。

昔々、インドに本来住んでいたインド人とは別の民族が入り込んできたのです。この民族は今ではアーリア人という名前と呼ばれている白人系の民族です。今から四千年ぐらい前だと思いますが、このアーリア人という民族は血筋は白人系ですから、色が白い人たちで、イギリス人やフランス人と同じ系列の人たちです。それに対して、もともと住んでいたインドの人たちというのは、これは私たちとよく似た黄色系の人たちです。

しかし、暑いところで暮らしていますから、もともと色が黒くなっていますから、黒い色の東洋系の人たちところに白い色のアーリア人が入ってきたために、要するに二種類の民族が入り交じって暮らすことになりました。

平和に平等に暮らすのならよかったです。もちろん侵入してきたほうが強いですが、当然、侵入してきた強いアーリア人と、その下に置かれる元々の土着の人々という人種の二重構造になります。

さらに、これがインド的な文化と絡み合う中で、大きく四つに分かれていくわけです。これが皆さんご存じのカースト制度です。こうしてアーリア人が侵入して、インドには、生まれ、血筋で人を区別するという形のカーストというものが生まれます。

最終的には、もう一つ、その下にもう一つ下がつて、もっとひどい、カーストに入れてもらえない差別されている人たち、アウトカーストと呼ばれますが、大枠五つの身分制に分かれたわけです。

これは完全な血筋主義ですから、その家系、その家に生まれた人は、その家系で、その身分の人たちということになります。

このカースト制度ですが、日本にも差別はありますね。アメリカにも、例えば、黒人差別のような差別があるのですが、このカーストの差別というのはちよつと日本やアメリカでの差別とは違うのです。

カースト制度の一番上は何というかご存じですか。バラモン、クシャトリア、ヴァイシャ、シュードラとあって、一番上はバラモンですね。バラモンというのは、これは中国に入ったときも、「婆羅門」(バラモン)と書くのですが、本当はバラモンと読むのではなくありません。これはブラーフmanaと読みます。このブラーフmanaという単語とよく似たインド語がありまして、それはブラフmanという単語です。これは、神様の名前です。私たちのよく知っている梵天のことです。

仏教が生まれる前のインドの世界では、このブラフmanという神様が絶対的な神として最上位に置かれているという神話の世界、神々の世界です。そして、我々人間はその神々を称えることにより、我々はその恩恵を受けるといふ、そのギブ・アンド・テイク

の世界であつたということです。

私が言いたいのは、このブラフマン、梵天という神様のこの名前と、カースト制度の一番上のバラモンと呼ばれる人たちの名前は似ていますねということです。

ブラーフマナとブラフマン、これは似ているのは当たり前のことなのです。このブラーフマナという単語はブラフマンからできたものです。ブラフマンに関するとか、ブラフマンのとか、あるいは、ブラフマンの直系のという意味なのです。

何が言いたいかというと、カースト制度は社会的な差別制度ではなくて、これは神の世界つまりは宗教制度なのだということが言えるということです。

日本の部落差別とか、あるいはアメリカの黒人差別というものは、宗教性のもではなく、社会性の差別です。つまり、社会がある状況になったときに、だれかわかりませんが、その差別の心を持った人間が人間社会を差別してやろうと思つてつくつたのが社会的な差別です。

本来そんなものを差別している人間はなかったのに、その社会の中でこうすると権力にとつて社会を治めるのに都合がよいとか、あるいは、こうすると生産性がよくなるとか、そういう人間の利得に基づいて、だれかが考へた差別制度です。

黒人差別なんか、そうでしょう。あれは南部の綿を收穫する人を、人手が足りないので、アフリカからだで持ってきたわけですね。無料の労働力として取り入れた、それがそのまま差別になつていくわけです。

ところが、インドのカースト制は違うということです。それは宗教に基づく差別です。もつと言いますと、梵天さんというこの神様が世界を司つていてということを認める場合

は、必ずカースト制度も認めなければならないということです。

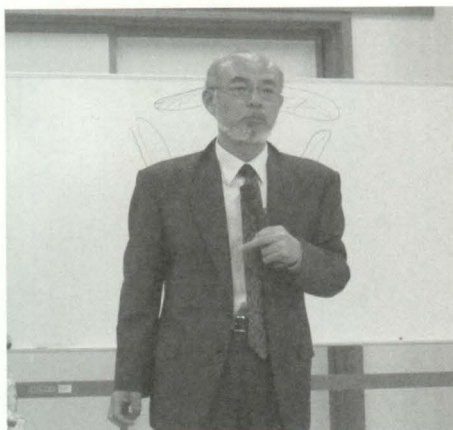
例えば、日本で、これは全くうそですが例えば、アマテラスオオミカミ（天照大神）は、人間を土農工商に分けました。そうすると、日本の神道をもし信じるならば、アマテラスオオミカミも信じなければなりません。そうすると、自動的に人間は土農工商に分かれていますということを信じるようになります。これはたとえとして全く架空の話をしているのですから、その点は重々承知しておいていただきたいのですが、ともかくこれと同じ話なのです。

では、人間は皆平等なんだ、土農工商なんかに分かれていないんだと言いたかったら、どうしなければならぬかという、それはアマテラスオオミカミを否定しなければならぬ。もつと言うと、日本の神道は間違つた宗教であると言わなければいけなくなります。宗教的差別とはそういうものです。

インドでカースト制度がなぜ消えないのかというと、それは社会的とかお金の問題とかそんなのではない。インド人が信じている宗教そのものの中にこのカーストが含まれているからです。それがこのブラーフマナとブラフマンという単語に如実にあらわしています。

逆に言いますと、生まれ、血筋で完全に最初から区別するようなこの制度が理不尽だと思う人は、何をしなければならないかと思ったら、社会制度を改革したつてだめなのです。社会制度改革を目指してもだめなのです。なぜかというと、カーストというのは社会制度ではなく、宗教制度だからです。

ということは、カースト制度というものを完全否定しようとするならば、その人は何



ささき しずか

花園大学文学部教授 文学博士

1956年生まれ。京都大学工学部工業化学科及び文学部哲学科仏教学専攻卒業。京都大学大学院博士課程満期退学。米国カルフォルニア大学バークレイ校留学。専門は仏教哲学、古代インド仏教学、仏教史。

日本印度学仏教学会賞、鈴木学術財団特別賞受賞。毎年2回、東京において「科学と仏教の接点」をテーマとする科学者とのトークセッションを開催中。

主な著書『インド仏教変移論—なぜ仏教は多様化したのか』（大蔵出版）、『犀の角たち』（大蔵出版）、『日々是修行』（筑摩書房）、『生物学者と仏教学者七つの対論』（共著）『律に学ぶ生き方の智慧』（新潮選書）

にしなければいけないかというと、社会科学者ではなくて宗教家にならなくてはいいのです。それまでの宗教とは違う、別個の宗教をつくるしか方法はないわけです。実際に今から二千五百年ぐらい前、インドにカースト制度がだんだんしみついてきたのですが、当然そのカーストに対する不満も起こってきます。

（つづく）

寺院紀行

特別編

吞龍上人

海をわたる

撮影・文／真山剛



可愛い子供たちの成長を願うお母さん方が参列された。右手前奥は久住大樹西福寺住職

平成26年7月2日、午後3時から小笠原諸島の父島にある浄土宗  
行行寺で法要が執り行われた。

法要の主役は群馬県太田の大光院で開眼供養された吞龍上人の御  
分影、大本山増上寺円光大師堂の法然上人御像の制作者でもある山  
本榊老和仏師の手による身の丈40センチトル余りの白木の木像だ  
った。

法要に集まったのは父島在住の小さいお子さんとそのお母さんが  
5組14人、そして埼玉吞龍会の僧侶とその檀家さん31名。

総勢45名の参列者の前で遷座法要の導師を務めたのが、行行寺の  
開山上人である吉田一心住職。今回の寺院紀行はこの法要に関わる  
僧侶とお寺の紀行である。

吞龍上人は平成18年9月号のこの寺院紀行で訪れている群馬県太  
田の大光院の開山上人で、今でも北関東では有名な僧侶で「子育て  
吞龍さま」と老若男女に親しまれている。

吞龍上人は1556（弘治2）年、埼玉県春日部に生まれ、その  
学門の才と人間的魅力から師僧に可愛がられ徳川家康にも重用され  
た学僧だった。江戸時代に確立された浄土宗の僧侶の養成機関であ  
る関東十八檀林のひとつ、太田の大光院の開山上人となりながら、  
多くの親の無い子供たちを弟子として育て、また鶴殺しの罪で幕府

# 吞龍上人 年譜

- 1556(弘治 2)年 武蔵国埼玉郡一の割村（現 春日部市）に岩槻城主大田三楽斎資正の家臣井上將監信貞の次男として生まれる。幼少期に圓福寺にて手習い
- 1569(永禄12)年 隣接の平方の大善寺（現 林西寺）住職、叡井上人の弟子となり得度する
- 1570(元龜 元)年 大本山増上寺へ入山
- 1584(天正12)年 大善寺第九世住職となる
- 1591(天正19)年 徳川家康の指示で大善寺を林西寺に改名
- 1597(慶長 2)年 武蔵国児玉郡八幡（現 本庄市児玉町）に長福寺を開山し第一世となる
- 1600(慶長 5)年 武州滝山（現 八王子市）大善寺第三世となる
- 1613(慶長18)年 家康より上野国太田（現 群馬県太田市）大光院の第一世を拝命す
- 1616(元和 2)年 鶴殺しの源次兵衛をかばい離山、信州小諸へ。僧位、住職停止の命下る
- 1621(元和 7)年 徳川秀忠より赦免され大光院へ帰山
- 1623(元和 9)年 示寂 法号 源蓮社然齋上人 大阿弥信吞龍大和尚

※参考『人間愛に生きた 子育て吞龍上人絵伝』（吞龍上人絵伝刊行会 2006）

から追われる孝行息子を寺に匿い、果ては一緒に逃亡するといったエピソード。加えて数々の奇瑞を起こした靈験あらたかな名僧で、どうしてこの国の小説家が吞龍上人を主人公に物語を書かなかったのかが不思議に思える。そこで、今流行りのネット販売のアマゾンで調べてみた。出てきたのは大光院第63世日野靈瑞師が書いた『開山吞龍上人伝』だけで、しかもこの本は明治時代のもので、アマゾンでも既に取り扱われていない。

この著者の日野靈瑞師は明治時代を代表する快僧で、寺力が弱まる大光院の再興のために吞龍上人の徳を広く世に知らしめるために故信講（吞龍上人の戒名）を広めた仕掛け人だ。以前の取材で「子育て吞龍の開山忌には多くの参詣者で太田の食堂という食堂から食べ物が一切なくなった」という一文に出合い、今だに記憶に残っているがまさにこの故信講人気によるものだ。

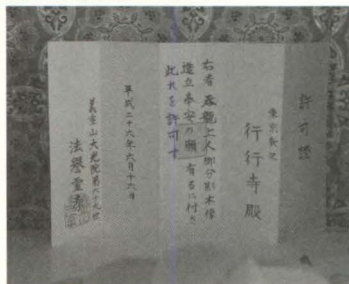
さて、この吞龍上人を現代にふたたび世に知らしめるべしと設立された会がある。埼玉吞龍会である。

「東日本大震災で絆の大切さが見直されていますが、改めて絆と言われるように今は地域や家族関係のつながりが非常に弱くなっています。そうした現代社会に吞龍上人の人間愛、特に子育ての大切さを一人でも多くの人々に広めたい」と会設立の趣旨を埼玉吞龍会顧問の石田祐寛圓心寺住職が話してくれた。

“念仏の行を行ずる” から行行寺と命名された



太田・大光院からの許可状



今から8年前にこの呑龍会設立の記念誌として発行された『人間愛に生きた 子育呑龍上人絵伝』が手元にある。その資料頁の「子育呑龍上人有縁寺院一覧表」から呑龍上人像が奉安されている寺院を県別でまとめてみると。

北海道 1か寺 群馬県 20か寺、栃木県8か寺、茨城県6か寺、埼玉県16か寺、東京都8か寺、千葉県1か寺、神奈川県4か寺、長野県6か寺、愛知県1か寺、岐阜県1か寺、新潟県3か寺、滋賀県1か寺、京都府1か寺（全77か寺）宗派はほぼ浄土宗ながら、時宗、曹洞宗、臨済宗、天台宗、役所管理のお堂もある）。

埼玉は有縁寺院数では2番目だが、呑龍上人の生誕地であり、僧侶になった地でもあり、そうした縁の深さから埼玉呑龍会と名付け、率先してその教えを広めているのである。直近では5年前の北海道札幌の寺院、そして今回の東京都小笠原村父島行行寺への遷座である。行行寺への御分影の遷座理由を聞いてみた。

「吉田住職が僧侶になる最後の修行、加行を増上寺で受けた頃、ちょうど私が加行係だった時で、彼ら行僧の面倒を見る立場でした。行僧の中でも吉田住職は目立っていて、年齢も近いこともあり、僧侶になってから親交を持ち、平成20年の行行寺本堂落慶を目標に支援し続けました。その後、2年位前に突然増上寺に現れて、『石田

## 埼玉呑龍会の寺々① 呑龍上人生誕の地

### 春日部・一の割 大河山華蔵院 圓福寺

門前には呑龍上人の実兄である井上信貞の末裔が開園した「学校法人井上学園 ルネサンス呑龍幼稚園」があり、その地で生まれた呑龍上人が手習いし、仏の教えと出会った寺院がこの圓福寺。また明治期の25世の進善春常、26世の教善常念両上人は近隣各地を布教行脚、呑龍講（念仏講）を組織し、圓福寺は「一ノ割呑龍様」と親しまれてきた。昭和初期まで毎年4月と10月の8日は呑龍上人像を開帳、例大祭を催していた。この頃の永代講社は一府七県にわたり、講員芳名帳が現存している。呑龍上人像は4月の第一日曜日の「圓福寺まつり」で今も開帳されている。



呑龍上人像

本堂



講員芳名帳



内陣

先生、島の奥さんに安産祈願を頼まれたのですが、祈願法要はどうすればいいのでしょうか」と尋ねてきた。とりあえずその方法を教えたものの、吉田住職が開山後も色々苦労している事は知っていたし、呑龍さまが南の島にわたられ、島の人々の心の拠りどころになれば」とその理由を説明してくれた。

石田顧問が住職を務める圓心寺は埼玉県本庄の旧街道沿いの寺。滋賀県石田村出身の曾祖父、石田在寛師が京都の本山の執事への誘いを断って、たまたま中山道を下る途中、酒屋が目の前にあるこの寺が気にいって住することになったという。今回の船旅で石田顧問のお酒好きを目近にし、この話に納得した。その在寛師の長男、信寛師が23世の法灯を継いだのが大正時代。時まさに日野靈瑞師が呑龍上人の故信講を広げている最中で、信寛住職も呑龍上人像を勧請、故信講を組織し毎年太田・大光院へ参拝していた。そうしたことから圓心寺は「本庄の呑龍さん」と呼ばれ、近所のおばちゃんたちが集まっては刷っていた呑龍さんのおれも大人気。4月と10月の8日の呑龍さんの日には夜店が立ち並び、素人芝居も演じられた。人氣の演目は国定忠治だったという。しかし、昭和30年代のテレビの普及とともにお寺に足が向かなくなったのはどのお寺も一緒。その中で呑龍堂と入れ替わるように「どんりゅう保育園」を開設。こうした圓心寺と呑龍上人の縁を見続けていた正信住職次男の第25世祐寛

## 埼玉呑龍会の寺々② 呑龍上人が僧侶になった寺

越谷・平方 白龍山月照院 林西寺

1569（永禄12）年、呑龍上人が14歳の時に入寺したのがこの大善寺（現 林西寺 以下略）。呑龍上人が第8世叟弁上人の弟子となった寺。翌年には増上寺学寮に入り、14年の修行で一区切りつけて大善寺の第9世に。以後17年間の大善寺住職中に大雨慈雨の靈驗により各地より雨乞の依頼を受け、諸方へ赴きいくつか寺院を建立した。1591（天正19）年には徳川家康より寺領25石の朱印状を受け、大善寺から林西寺への寺名改名が指示された。呑龍上人の墓石は太田・大光院の墓石と形状が同じことから、当寺に分骨埋葬されたと推測される。まどか幼稚園を併設している。



呑龍上人像

本堂



呑龍上人墓石



内陣

住職は、平成4年の保育園閉園後に埼玉呑龍会の顧問になっている。

ちなみに埼玉呑龍会設立の口火を切ったのは、今回も同行している糸原恒久蓮馨寺住職と池田常臣圓福寺住職。会長である糸原住職の寺は関東十八檀林に名を連ねる名利であり、昔から変わることなく呑龍さまへのお参りが絶えないお寺。そして副会長の池田住職の寺は呑龍上人誕生の地の寺で、檀家さんに呑龍上人の末裔がいる。ちなみに今回の遷座法要にも参加された井ノ上俊雄さんがその人で呑龍上人の実兄から数え十八代目にあたるといふ。

埼玉呑龍会はこの3か寺に加え、得度し弟子に入った林西寺、開山し自作の木像が残る長福寺、故信講で大正時代に開山された西福寺といった呑龍上人有縁の寺院の住職たちの篤い想いで設立運営されている。今回の小笠原への遷座には急な寺の仕事で不参加となつた高志光大林西寺住職を除く住職が集まっている。

さて、今度は呑龍上人をお迎えした行行寺に目を向けよう。

夜明山一心院行行寺の吉田一心住職が呑龍上人を知ったのは、布教師の仲間であり今回の遷座法要でも司式を務められた先の圓福寺池田住職から送られてきた呑龍上人の絵伝、先に紹介した記念誌の誌面でだ。

「私は40才半ばを過ぎてからの出家で、不勉強で呑龍上人は知りませんでした」という吉田住職だが、伺った経歴がそれは興味深い。

### 埼玉呑龍会の寺々③ 呑龍上人が開山した寺

#### 本庄・児玉 延年山無量院 長福寺

呑龍上人が大善寺（現 林西寺）住職時代の奇瑞（大雨慈雨の靈驗）により、各地へ頻繁に出向いていた頃、しばしば立ち寄っていた千日堂を寺院にしたのがこの長福寺。大善寺から長福寺は直線距離でおおよそ65km、長福寺前は鎌倉街道が通る交通の要衝だったことから、呑龍上人が群馬や長野へ向かう途中の立ち寄り所、もしくは宿泊所だったかもしれない。呑龍上人が住職を務めたのは2年間で、呑龍上人自作と伝えられる地藏尊の木像が残っている。昭和30年代後半までは、4月8日の縁日には、境内に設えてあった舞台上素人芝居が演じられ、多くの参拝者で賑わっていた。



呑龍上人

本堂



呑龍上人手彫りの地藏像



内陣

一心は本名で、総理大臣を務めた石橋湛山の言葉「何事もただこれ一心に」から父が命名。生まれは中国の青島で昭和19年生まれ。生後半年で運良く九州へ戻ることができ、その後は北海道へ。10歳の時に神奈川県は藤沢に引っ越した。ちなみにその家は現在在二人の娘さんの生活の場となっていて、また本土に戻った時の吉田住職の拠点でもある。名門湘南高校から神奈川大学へ。吉田住職の運命を決定付けることになったのが大学時代のアルバイトで、恩師から紹介された海水浴場の監視員の仕事。4年間続ける中で日本赤十字の講習を受け指導員になる。そして日本赤十字に就職。しかし、役人素質が合わず1年で退職するも、「十字のマークを背負っているあなた達に負けない仕事をします」と言い残し有言実行。父島の浄土宗僧侶という今でも救急法の執筆依頼や監修を受けるように、生涯の拠り所となる救急法のプロ技術を身につけ、赤十字に現場で働ける人材を送り込んだという。

その後、2つの商社に勤務するも夏には赤十字やライフガードの仲間から救助法講習の講師要請がくる。結局29才まで我慢し会社員を務めるも退職、「ライフセービングサービス」という会社を設立する。順風満帆とはいかなかったが、公営のプール全般の管理委託まで任せられ成功させるが「俺の仕事はプール管理だったか」と今度は会社の約款に物販も加え、「ブルーラグーン」というスキューバ

#### 埼玉呑龍会の寺々④ 呑龍上人で今も賑わう寺

##### 川越・蓮雀町 孤峯山宝池院 蓮馨寺

蓮馨寺の開山感嘗存貞上人の弟子が徳川家康の宗教顧問だった観智国師で、その弟子が呑龍上人。つまり呑龍上人は孫弟子にあたる。参道正面に位置するのが呑龍堂で、祀ってある呑龍上人像は太田・大光院の呑龍上人分身像。蓮馨寺は境内が常時解放されていて、呑龍堂には昼夜お参りが絶えない。毎月8日には「呑龍上人デー」の縁日がたち、多くの屋台が並ぶほか境内で大道芸なども演じられ、川越の名物のひとつ。呑龍上人に関わる寺院の多くはテレビの普及まで賑わっていたものの現在はその面影が薄くなっている中で、この蓮馨寺の呑龍上人の人氣はまさに別格。



呑龍上人

本堂



お守りお札



内陣

ダイビングのショップを江の島の西浜に出店。時はまさにバブル全盛期、ダイビングブームが押し寄せ店は大繁盛、雑誌に連載原稿も書くようになる。しかし、またまた転機が訪れる。所属していたアメリカのダイビング教育機関のナウイ（NAUI）からパディ（PADI）に移ったが、そのパディが小平に新設するPADIカレッジの校長への就任を依頼してきたのだ。43才の時、並いる先輩を差し置いての抜擢人事だった。そこでPADIカレッジ一本に絞るためにお店を人に譲ったが、優良経営を続けた3年目にPADIカレッジに企業合併買収の話が舞い込む。体調を崩すほどの交渉の末、結局売却となり、吉田住職は身体ひとつになってしまった。

「売却代金の精算日でもあったから正確に覚えていますが、46才の3月28日でした。函館の湯の川温泉に来ていたのですが、そこで坊さんになろうと決心したのです」

小平での単身赴任の社長時代に心の穴を埋めたいと買い求めている仏教書が後押しをしたようだ。しかし、僧侶になる理由は、忙し過ぎて身体を壊したことで、学生時代から数え切れないほど見てきた死が、一人称、つまり自分自身の死という形で目の前に現れてきたからだという。

「怖かったですよ、自分の死が。そして、どうやったらこの不安を乗り越えるかとさんざん悩んだ結果、行き着いたのが仏教です。だ

## 埼玉呑龍会の寺々⑤ 本庄の呑龍さまと呼ばれる寺

### 本庄・本庄 要行山 圓心寺

往古より「中山道の赤門寺」と親しまれた寺で、大正時代初頭に呑龍上人分身像を勧請、大正4年には第23世在誉信寛上人が呑龍堂を建立、故信講を組織して毎年太田・大光院へ参拝していた。3間4方の呑龍堂は昭和40年代後半まで残っていた。また昭和33年からは「どんりゅう保育園」を開園、平成4年まで地元の幼児たちが通っていた。地元では「本庄の呑龍さま」と呼ばれている。現在の第25世石田祐寛住職は埼玉呑龍会の顧問を務められている。また増上寺の執事を務められていた。今回の父島行行寺への呑龍上人像勧請は石田住職の発案による。



呑龍上人

本堂



保育園案内石碑



内陣

から、私は死の恐怖を取り除くために仏教を選び、僧侶になることを決めたのです」

今年、70才を迎えた吉田住職。この46才の出家の決意から24年が過ぎている。その経歴からもわかるように行動力は並外れている。

と言うことで、僧侶の経歴も見てみよう。

働きながら僧侶の資格を取得できる浄土宗の佛教大学通信教育に目標を決め、地元藤沢の浄土宗寺院に弟子入りして入学。途中で勉強一本に絞り49才で僧侶となり51才で鈴鹿の寺の住職に。その間に母島在住の友人から葬儀の依頼を受けたのをきっかけに寺のない父島に新寺建立を決意し、全国を勧進行脚。目標を超える8000万円の寄付金を集めた。そして鈴鹿の寺の後継者を決めて57才で行行寺を開山する。念仏の行を行うという意味の行行寺では硫黄島を訪れ戦没者の供養を行っている。今は休業中ながら宿坊も始めた。応援してくれる僧侶も数多く、そうした方々に近況報告も兼ね発行している寺報は今夏で40号を数える。そして、現在も年に4回は本土に戻り布教師として全国各地で布教を行なっている。

吉田住職が寺の世界に入った時期にちょうど浄土宗が後継者問題や、国内開教で新寺建立の後押しを始めたこともあるが、その行動力はズバ抜けている。どちらかというとのんびりペースの寺社会には、吉田住職の動きは驚異的に映っているに違いない。

## 埼玉呑龍会の寺々⑥ 大正時代創建の呑龍上人の寺

### 大宮・大宮 放光山 西福寺

大正時代の初頭、埼玉教区が至便性も考慮し、大宮駅近くに埼玉教務所を兼ねた大宮教会所として創建したのがこの西福寺の始まり。当時埼玉教区の布教団長を務めていた池田常念師の圓福寺より呑龍上人像を勧請した。布教の対象は近隣の住宅地や鉄道省大宮工場の官舎の人々だが、近隣の人々は教会所を呑龍様と呼び大いに賑わった。しかし、大正12年の関東大震災で世相は一転、埼玉教務所は教務所長（今井真静師）の寺（幸手の聖福寺）に移ることになった。その後は檀家のない教会所ながら地元の有力者に支えられ、呑龍上人の縁日なども催し、現在の西福寺となっている。



呑龍上人

本堂



安置の木札



内陣

さて、この吉田住職が建立した父島行行島だが、人口が減少する中でしかも太平洋上の孤島、子育てや安産の祈願が必要なのだろうか  
と疑問がわく。

「父島の人口は約2100人、そのうちの半数以上、3分の2近くが本土からの移住民だと思います。というのも人口の多い職業ベストスリーが公務員、漁師、観光関連。東京から南へ千キロメートル、太平洋上の島という立地から気象や宇宙の観測所など公的出先機関が多く、若い公務員が来島し、かつ数年で入れ替わります。加えて旅行者のリピーターも多く、気に入って住まいを移す人が少ないのです」

さらに吉田住職はこう加える。

「島には保育園が一つあります。仕事で来る人も移住する人も若いですから、出生率が全国平均より高いのですよ」と。

今回の法要には島中の小さい子供を持つお母さんとお子さんもだ。もちろん吉田住職に安産祈願をお願いしたお母さんとお子さんもだ。

家に鍵を掛ける心配のない父島、人と人の距離が近いこの島で子育て呑龍さんの噂が広がるのにそう時間はかからないだろう。そして、埼玉呑龍会とともに海をわたった呑龍さまも世界自然遺産の小笠原諸島の鮮やかな藍色の海と空が氣にいいに違いない。(ルポライター)

埼玉呑龍会で発行した『人間愛に生きた呑龍上人絵伝』。在庫僅少ながらありとのこと



本師釈尊すでに頭北面西にして滅を唱え給う、これまた衆生のためなり。我れいかでか釈尊にまさるべき。

（法然上人『御臨終の時、門弟等に示されける御詞』）

仏教の開祖、お釈迦さまも、すでに頭北面西でご入滅されましたが、それもまたわれら衆生に阿弥陀さまがまします西方極樂浄土を欣<sup>ねが</sup>う手本を示すためだったのです。どうして私、源空がお釈迦さまより勝れた手本を示すことができましようか（いや、ただただお釈迦さまのお姿を仰ぎ慕うのみです）。

西方浄土への往生　— 死にもせで　西へ行くなり　風光る —

今年の五月、明治の文豪・夏目漱石が、教師だったころの同僚に宛ててしたためた短冊二枚と書簡が発見され、大きな反響を呼びました。

この書簡は、明治二十九年（一八九六）四月八日の日付で、二十九歳の漱石が、小説「坊っちゃん」の舞台となった愛媛県尋常中学校（旧制松山中学、現・松山東高校）から、熊本市の第五高等学校（現・熊本大学）に英語教師として赴任する際、同中学の同僚教師だった猪飼健彦さんに宛てたもので、和歌山市内にある猪飼さんの曾孫の家で見つけられました。別れの挨拶に訪れた猪飼さんが、会えなかった漱石に手紙を送り、漱石がそれに返答する書簡で、漱石は会えなかったことを詫び、猪飼さんが手紙にしたためた短歌への返礼として、俳句を三句添えています。漱石は、近代俳句の祖・正岡子規とも交流が深く、「阿弥陀仏」の弟子を名のった自身の俳号「愚陀佛」を冠した「愚陀佛庵」で、病氣に臥す子規と共に過ごしつつ、多くの俳句を遺しています。

今回発見された一連の書簡の中に、未発表の俳句が二句含まれていました。

花の朝 歌よむ人の 便り哉

便箋末尾に付されたこの句は、まごころのこもった便りを届けてくれた猪飼さんとの惜別の辛さを詠んでいます。

死にもせで 西へ行くなり 花曇

短冊に添えられていたこの句は、「阿弥陀仏の極楽浄土は〈西方〉にあると言われているけれども、私はこの花曇りの下、まだ死んでもいない身ながら〈西方〉へ行くことになった」という意味内容で、松山よりも、さらに「西」にある勤務地に赴く漱石の複雑な心境が「花曇」という季語に表れています。

漱石の句にもあるように、阿弥陀さまは、私達凡夫の心をよくご存じで、私達の心がもっとも落ち着く方角である西方にお浄土を建立されました。阿弥陀さまの西方浄土について法然上人は、次のようにお示しです。

彼の国（極楽浄土）は即ち西方にあり。日の入りの方も又西方にあり。彼の国は（春秋）二季の彼岸の日の正しく東より出でて西に入らん時に目を開き目を閉じて見るごとしと云えるなり。（『逆修説法』）

こうした法然上人のご説示のように、古来、私達日本人は、お念仏をはじめとする仏道修行に、より精進する行事である春秋のお彼岸を通じ、西方浄土に先立たれた大切な方々を想い偲び、かけがえのない方々からのお守りとお導きを願ひ続けてきたのです。

なるほど私達は、この世での「死」後、阿弥陀さまの西方浄土に「往生」す

るのですが、決してそれはすべての終わりとしての「死」ではありません。私達は、西方浄土に「往<sup>い</sup>って生まれる」のです。法然上人も「十方に浄土おおけれど西方を願うは十悪五逆の衆生の生まるる故なり」（『二紙小消息』）とお示しのように、正に浄土往生とは「死にもせで 西へ行くなり」なのです。

ところで漱石は、夫を通じて交流があった、歌人であり、作家でもあった大塚楠緒子の訃報に接し、次の句を詠みました。

あるほどの 菊投げ入れよ 棺の中

誰しも人は、かけがえない大切な方の旅立ちに際し、万感の思いを込め、そして、西方浄土での再会を期して、ありったけの花で棺を埋め尽くし、そのはなむけとするのでしょうか。もちろん、大切な方との別れの悲しみが尽きることなどありません。しかし、阿弥陀さまの西方浄土への往生は、桜の花の咲く頃のほんやりと曇った空模様を表す「花曇」よりも、春の日差しの中をそよ風が吹き渡る様子を表す「風光る」の心持ちの方が相応しいことでしょう。

死にもせで 西へ行くなり 風光る

お釈迦さまの最期のお姿も、西方浄土に往生できることの尊さをお示しになられたのだと、冒頭の法然上人のご法語は優しく私達にお諭しです。合掌（林田 康順）

御宿とメキシコを結びつけたもの

# 友好の絆

第五回

森清鑑

### ウィリアム・アダムス（三浦按針）

家康の伝達状を携えて、城主忠朝とロドリゴに会うために江戸から大多喜城にやってきました、ウィリアム・アダムス（日本名…三浦按針<sup>みづらあん</sup>）。彼もまたロドリゴの御宿遭難を遡ること九年前の一六〇〇年四月二十九日。大航海の果てに、豊後臼杵に漂着し、家康に救われた人物であった。つまり、ロドリゴと同じ体験をしていたのである。

アダムスの大航海は、ロドリゴとは逆に、オランダを出航し、大西洋を南下、南米マゼラン海峡から太平洋を横断し、極東を目指すもの。その目的は、香辛料買い付けを初めとする、交易新航路の開発にあった。しかし、この航海は、当時、まさに探検に近い航海。一五九八年ロッテルダムを出航した、五隻の大船団は、惨憺たる災禍を被り、図らずも極東に辿り着いたのは、リーフデ号一隻のみ。同乗のアダムスの弟、トマスも途中、インデ

イオの襲撃に遭い命を落としている。病気なども重なり、リーフデ号の乗組員百十人は、日本に漂着したときにはわずか二十四人という有様であった。

ウィリアム・アダムスはイギリス人。一五六四年イングランド南東部ケント州ジリンガム生まれ。父親が船員だったこともあり、海に焦がれ、十二歳で、ロンドン郊外の造船所入り。以後十二年、造船技術、航海技術を習得し、幅広く幾何学や数学をも修めた。そして二十四歳で独立し、百二十トンの船を所有。その後、勃興期のイギリス海軍補給船として活躍し、一五八八年には、スペイン無敵艦隊との海戦（アルマダの海戦）にも参加している。

その後、オランダがロッテルダムから極東を目指すベテラン航海士を募集していることを知り、弟と共に参加、見事に採用された。リーフデ号の航海長である。

しかし、この二年に及ぶ、苦しい大航海の

果ては、沈没または拿捕<sup>だほ</sup>で船団は霧散し、リーフデ号のみ豊後臼杵に漂着（三浦按針上陸記念碑・記念公園）。ロドリゴが御宿で土地の人々や領主本多忠朝に助けられたのと異なり、アダムスの場合は悲惨であった。まず、管轄の長崎奉行に、身柄を拘束され、積まれていた大砲、火縄銃、弾薬は、没収。その上、日本に居たイエズス会の宣教師達がオランダ人、イギリス人に海賊の汚名を着せ、即刻処刑するように進言。彼等の命は風前の灯火となった。この時、彼等の命を救ったのが徳川家康である。当時、豊臣政権の、五大老首座として、家康は、外国人宣教師達の処刑諫言<sup>かんげん</sup>を退け、とにかく会って見なければ分かんではないかと、身柄を解き、船とともに大阪に回送させた。

そして、五月十二日、家康は初めて彼等と会見。この時ウィリアム・アダムスとオランダ人ヤン・ヨーステン（リーフデ号航海士）は、航海の目的と結果、状況をくわしく説明

し、オランダ、イギリスなど新教国とポルトガル、スペイン等のカトリック国との宗教紛争実態を正直に説明。家康は通詞を通し、じつと聞き入っていたが、二人の邪念のない明快な話と態度に感じ入る。海賊なんてとんでもないデマだ。その後、幾度も引見し、彼等の見識の高さと確かな人格を認める。この間も、宣教師達は執拗に処刑を要求してきたが、家康はこれを全て黙殺し、それどころか、二人を城地、江戸に招く決定を下す。この出来事が、実に天下分け目、関ヶ原の戦いの半年前のことであった。つまり家康にとって大変な時だったのである。

そして一六〇〇年十月二十一日（慶長五年九月十五日）の関ヶ原の戦いに勝利すると、その後に続く、大阪冬・夏の陣（一六一四～一六一五）はあるものの、家康は全国的平和維持体制に向かつて突き進んでいく。この間、ウィリアム・アダムスとヤン・ヨーステンを帰国させるどころか、逆に米や俸給を与えて

慰留。しかも江戸城の中樞の場所に二人の屋敷を構えさせる。アダムスの屋敷は、今の日本橋室町。魚河岸のすぐ裏である。ためにここは永らく按針町あはじんと呼ばれることになる（三浦按針屋敷跡の碑）。一方のヤン・ヨーステンの屋敷は、東京駅八重洲口近辺の、内堀内にあったところから、彼の日本名、耶楊子やようすが訛り、八重洲河岸と呼ばれるようになり、今日の「八重洲」の語源となった。そして二人とも日本女性を妻に娶めとる。アダムスの妻は、日本橋大伝馬町の名主で、家康の御用商人でもあった馬込勘解由の娘、お雪。二人の子供をもうける。

家康は、アダムスを信頼し、外交交渉の助言者として登用。アダムスは、日本にやってきた最初のイギリス人として公正な海外事情を伝える。また、家康の側近に幾何学、数学、航海術などを教授。そして家康は西洋式帆船の建造をアダムスに命じる。一六〇四年、アダムスは伊東に造船ドックを設け、八十トン

の帆船を建造。乗船し、その出来映えに感心した家康は、その場で、今度は外洋でできる大型船の建造をアダムスに頼む。こうして一六〇七年に百二十トン的大型帆船が完成する。この建造に際し、アダムスの設計と指示に従って働いた日本人船大工の実力を彼は賞賛してやまない。そしてこの船が完全に完成して幾らも経たない、一六〇九年にロドリゴ達が御宿で遭難したのである。しかも家康は、一六一〇年、帰国の道を探る、ロドリゴに、この貴重な船を無償で与えることになる。こうして彼等は、無事、ヌエバ・イスパニアの首都、メキシコ・シテイに帰ることができたのである。

アダムスが大多喜城に派遣されたのは、このような諸々の経緯があったからである。大多喜城で領主忠朝の紹介で初めて会ったロドリゴは、アダムスがイギリス人と聞き、当初、不信の念を抱いたが、話を進めるうち、その人格に惹きつけられ、心に感謝の渦が巻き起

こつた。

家康は、ウィリアム・アダムスの数々の功績を讃え、彼に武士の帯刀を許し、二百五十石の旗本に取り立てる。そして相模の国逸見へみ（神奈川県横須賀市西逸見町）に領地を与え、その名も三浦按針と改める（三浦半島と水先案内人の意）。一六一六年、家康の死後、幕府の鎖国政策が強まり、按針は、海外交易の許可地、平戸（長崎県最西端）に派遣され、ここでイギリス商館の開設に尽力、職責は天文官として一六二〇年この地に没することになる。しかし、彼の死後も相模国逸見の領地と三浦按針の名は、息子のジョセフに相続され、継続されている。

逸見の浄土寺は三浦按針の菩提寺となり、塚山公園には、按針夫妻の慰霊のために造られた二基の供養塔が立てられる。通称、按針塚。今日もここで按針祭りが催行されている。また、江戸の旧居、日本橋按針町でも法要が行われ、さらに、平戸では、一九五四年、新

たに三浦按針墓が建立される（嘗てのイギリス商館跡近く）。この時にはイギリスに残してきた妻の墓地から小石を取り寄せ、これを夫婦塚とし、供養された。

そして按針が洋式船を建造した、伊豆の伊東市には「按針メモリアル公園」が作られ、ここには、海を背景に重岡健治作のすばらしい銅像が建つ。伊東市は、毎年夏に「按針祭り」を開催。按針の故郷、イングランド、ジリングム市とも姉妹都市を結んでいるが、彼の、この出生地でも、毎年九月に「Will Adams Festival」が開催されている。

また、ヤン・ヨーステンは、アダムスとともに家康の外交政策に貢献してきたが、家康の死後、東南アジア貿易に従事、そこから、オランダに帰国しようとしたが果たせず、再び日本に帰ろうとした航海で船が沈没。亡くなっている。

その後も幕府の鎖国政策はますます厳しくなる一方であったが、長崎と平戸だけは別で、

ここではオランダ、イギリスとの交易が許可され、海外文化交流の窓口としても多大の貢献をなす。二人はその礎となったのである。ちなみにリーフデ号の船尾を飾ったエラスムス像は、重文として東京国立博物館に収蔵されている。

―蓮門句会(第五回)―

勝崎裕彦

(東京新宿・香蓮寺)

十夜月高くあります円満相  
高らかに十夜念仏天を行く  
山門も秋の最中や南無の声

山崎龍道

(天草熊本・遣迎寺)

殉教の島に雲なく寺十夜  
阿弥陀佛在す御堂の涼新た  
十夜粥炊きつつ念仏申さるる

ロドリゴ一行江戸へ向かう

大多喜では、ロドリゴ一行の江戸城行きの準備が調い、城主本多忠朝は、自らの愛馬をロドリゴに与え、家来をつける。ロドリゴは家康の朱印状を懐に、二代将軍秀忠との会見を目指し、大多喜を出発する日がやってきた。

(つづく)

お十夜

行正明弘

(福岡糸島・正覚寺)

勅使門入ればかりまし十夜鉦  
十夜粥注ぐや袂に数珠入れて  
十夜粥ひよつとこ顔で吹きさます

佐山哲郎

(東京根岸・西念寺)

潮騒や十夜へ向かふ古都の道  
同齡の老僧並ぶ十夜かな  
無縁塔灯してひとつ十夜柿

連 載

# 会いたい人 関 容子



片岡秀太郎

さん

下

撮影／タカオカ邦彦

昭和三十一年三月大阪歌舞伎座、秀太郎さんは十五歳で本名の彦人から二代目片岡秀太郎を襲名する。襲名狂言は『河内山』の腰元浪路の役だった。さぞ初々しく可愛らしかったことだろう。

「本名ですつと出ていたんですが、皆さんよくお読みになれないで、ひこひとちゃんとか、ひこんどちゃんとかおっしゃる（笑）。でも片岡家になかなか適当な名前がなくて、祖父十一代目仁左衛門の本名が秀太郎。それを我當になる前に名乗っていた時期がありましたので、私が二代目として襲名することになりました。ちょうど我童のおじが芦燕から十三代目我童を襲名するときで、私もそのおじの口上の舞台に並んで披露していただけて、ラッキーでした」

秀太郎さんが師と仰ぐ女方の先輩は二人あって、一人はこの十三代目我童（没後に十四代目仁左衛門を追贈されている）、もう一人は四代目中村雀右衛門だった。

「お二人の教え方は全然違いましたね。京屋の兄さん（雀右衛門）は、子供を教えるようにちゃんと立って、せりふもはつきり言って、きっちり教えてくださる。『鮎屋』（『義経千本桜』）のお里とか、『毛谷村』（『彦山権現暫助剣』）のお園とか、ていねいに教えていただきました。兄さんは戦後、兵隊から帰ってから女方に転向して、それから映画に行つて『佐々木小次郎』で大当りして、また歌舞伎に帰つてこられたんですが、そのころ一時大阪ですつと出ていらしたんです。可愛いし、粹だし、セクシーだし、モダンな女方で、鏡に向かつていらつしやるのを後ろから見てると、子供ごころに背中触りに行きたいほど（笑）、美しかったですね。

我童のおじにもいろいろ教わりましたけど、こつちは大人に教える教え方。『壺坂靈驗記』のお里とか、『生写朝顔話』の深雪なんかはていねいに教えてもらったけど、『角力場』（『双蝶々曲輪日記』）の芸者吾妻なんか聞き

「盲長屋梅加賀薫」「質屋」女按摩のお兼を演じる秀太郎さん。



に行くと、あの役はな、右へ三歩、左へ三歩、ウロウロしてたら幕が閉まるえ、なんて(笑)。その話をずっとのちに梅幸のお兄さんにしたら、いや、それは言い得て妙ですね、あれはそういう芝居ですよ、つておっしゃったのがすごく印象に残ってます。いい加減にウロウ

ロしてる役、つていうのがたしかにあるんですね、特に上方の女の役には。まったく、笑いごとではすませないような大切な言葉だね、つて梅幸兄さんが。その芝居の雰囲気を出して、その場に花を添えて、ウロウロしてればいい、というのが上方の女方の極意かもしれません。しかし基礎がなければそのウロウロがさまにはなりませんけどね。若いときはたつぷりくさめにやって、それからだんだんと洗練されていけばいいんでね」

今年の歌舞伎座、夏芝居に大仏次郎作の『たぬき』が出て、私は平成十三年九月の新橋演舞場で秀太郎さんが演じた身勝手な愛人、お染の湯上りの艶姿を思い出した。

急死したと思われ葬式を出されたあとに甦った柏屋金兵衛が、家族や愛人の心の裏を知り、別人として生きて二年後に姿を現す、という筋書。今回の金兵衛役は三津五郎、お染は七之助だった。

「私がお染のときの金兵衛は亡くなった團十郎さん。あの夏雄（本名）さんにはとても心に残るいい思い出があるんですよ」

平成五年暮れの京都南座顔見世に『心中天網島』が出て、このときの配役は坂田藤十郎の紙屋治兵衛、その兄、弟思いで実直な粉屋孫右衛門の役を、初役で團十郎がつとめた。

「京都で上方の芝居に東京の役者が出るわけですから、これはプレッシャーですよ。せりふ廻しとか仕草とか、いろいろ気がついたことを教えてね、って、小春役の私が頼まれました。それで、父の孫右衛門のニュアンスをいろいろお話して、たとえば町人が武士に化けて小春に逢いに来るきこちなさとか、できるだけ細かくお伝えしたんです。初日がいればらくしたところ、お礼に一献かたむけたいから、と言つて夏雄さんが先斗町のお鮎屋に招いてくださった。お酒も入つて話が弾み出したところ、ちよつといいですか？ お話して……って。何事かと思つたら、本当によく

勉強されていて、きちつとなさっているのはわかるんだけど、何かもう一つ可愛らしさが足りないのかなあ、抱きたいと思わないんです。もろさとか、はかなさとかがもつとあつたほうがいいんじゃないかなあ、って。あの人は恐れない人ですからね（笑）。先輩の私に向つて大切なところを、立役としてグサツと突いてくれたんです。それも傷つけないように、夏雄さんらしい優しい言い方で」

そんなことがあつたせいで、それから八年後の『たぬき』の共演での秀太郎さんのお染は、金兵衛が甦生して一番に逢いたいと思う可愛い女だったのかもしれない。

秀太郎さんの色つばさが濃厚に漂う役をもう一つ例にあげると、長谷川伸作『暗闇の丑松』の四郎兵衛女房お今だらう。

この芝居、料理職人の丑松が、相思相愛のお米（お米）との仲をさこうとするお米の養母をあやまつて殺す。信頼する兄貴分の四郎兵衛にお米を預けて姿を消して一年後、江戸に戻る途

中、板橋の妓楼に宿を取り、そこで女郎に身を落したお米に再会。釈明に耳を貸さない丑松に絶望してお米が自殺したあとで、やっぱり四郎兵衛にだまされ手ごめにされた挙句、女郎に売られた事実を知って、復讐の念が激しく燃え上がる。

お今は丑松の殺意を見てとって、お湯へ行っている夫を庇い、自分も助かりたいという思いから、必死の媚態を示して色仕掛で丑松に摺り寄る。

平成三年六月歌舞伎座、三代目時藏三十三回忌追善で観た秀太郎さんのお今が、寝起き姿で二階から降りてくる風情に濃厚な色気があったのをよく憶えている。

「ああ、あのときは錦兄にい（萬屋錦之介）が丑松でしたね。お米のおつかさんのお熊が花柳武始さんで、四郎兵衛は御木本伸介さん、演出の村上（元三）先生とか……、お米の今の時藏さん以外、みんないなくなってしまうたわね。

お今は好きな役ですよ。とにかく色気がなさやいけない。ただのいやらしいおばさんじゃないけないの。助かるためには他を顧みない女。愚かさ、浅はかさだけじゃなくて、女としての魅力を出せたら、と思って演じています。

丑松が、女つてのは、亭主を助けて自分も助かりてえ、と思うのか、つて、ここでお今とお米を重ね合せて、四郎兵衛に自由に売られて売りとばされた経緯に思い当るわけだから、お今は単なる敵役じゃない。一本気な男が初めて覗く人間の計算づくの浅ましさに気づくことになるんだから、お今はいいお役ですよ」

秀太郎さんは平成十八年七月の歌舞伎座でもお今を演じた。丑松は幸四郎、お米は補助、四郎兵衛は段四郎だった。

このときの筋書に面白いエピソードが紹介されていた。

初演の丑松役だった六代目菊五郎が、作者

の長谷川伸の前で「こんな芝居を書いちゃあしょうがねえなあ」と呟くので、いささかムツとすると、「泣けて芝居ができねえや」とすぐにあとの言葉をつけたという。いかにも六代目らしい、ひとひねりした挨拶の仕方だ。

ところで、六代目菊五郎を母方の祖父に持つ十八代目勘三郎は、とびきりの六代目崇拜にも関わらず、『暗闇の丑松』を生涯演じなかった。その理由を訊ねてみたら、「あれは人間を信じない男でしょ。だからやなんだ」と言っていた。

「なるほど、あの人らしい解釈ね。哲明（のりあき）（本名）さんはうちの仁左衛門と玉三郎さんと仲がよくて、よく三人で芝居をしてたでしょ。長谷川（伸）先生の『刺青奇偶（いれずみちゆうはん）』とか『忠臣蔵』の『九段目』とか。北条（秀司）先生の『浮舟』のときは、玉三郎さんが浮舟、仁左衛門が薫君、哲ちゃんが好色な勾宮で、私がお母さんで出て、すっかり仲よくなっちゃってね。今度『瞼の母』をやるときは是非

おつかさんで出てくさいよ、って言われたけど、私、あの役嫌いでね、って断っちゃった。だってそうでしょ。財産が心配でそれこそ俸の言うことを信じてないんだから。じゃあ、『文七元結』の角海老女房ならいいでしょ、と言われて、亡くなる三年くらい前の赤坂ACTシアターで御一緒しましたけど、彼とやっていると毎日がナマの芝居というか、自然体で芝居ができるの。真面目なアドリブでお互いのキャッチボールができる。毎日の舞台が楽しくてね。ああいう役者さんで滅多にいませんからね。

また一緒に芝居がしたいですね、お兄さんしか考えられない役がいっぱいありますから、と言ってくれたのに、共演はあの『文七元結』が最後でした。あのとき『瞼の母』断っておきながら、最近明治座で獅童さんの忠太郎のおつかさんで出ちゃった。哲ちゃん、ごめんなさい、だわね」

秀太郎さんは「伊賀越道中双六」でお米を演じている。



秀太郎さんの最近の舞台で、私が最も心惹かれた上方芝居の役と言えば、やっぱり『廓文章』の吉田屋内儀おきさだろう。

平成二十五年五月、歌舞伎座新開場の柿落公演に最もふさわしかった花やかな演目の一つで、松嶋屋兄弟が顔を合わせ、彌十郎・秀

太郎が吉田屋喜左衛門夫婦。仁左衛門が伊左衛門をつとめた。

秀太郎さんのおきさは何度も観ているが、今回改めて感じ入ったのは、そのせりふの緩急自在のさりげなさ、聞く者の耳に心地よい自然で粹で洒脱な間合いだった。

藤屋の若旦那（伊左衛門）が久々に顔を見せたというので、吉田屋の主人喜左衛門が、伊左衛門最良の女房おきさに声をかける。

「呼ばれて座敷へ出てきて、よそのおうちの型では『これは藤屋の若旦那』と、すぐ応待するんですけど、うちの型は誰方がいらしてることかわからないことになってあって『私が喜ぶお客さんで、もしや誰々さんでござんすか』って、その日お越しの御最良さんの名前を言っただけです。以前、噺家の桂枝雀さんが南座の顔見世に御見物にいらしてて、『あの、もしや枝雀さんでござんすか』と言ったら客席がウワーツと沸いて、枝雀さんは大いに照れてはりましたけど（笑）」

でも、私を感じ入ったのは、そのあとの伊左衛門とのやりとりのせりふ。

「あの入れ事のせりふのことね。『この間もな道歩いてて、若旦那かと思うて後ろからぼんと肩を叩いたら、松嶋屋の仁左衛門さんでござんした。まあ、まんざら知らぬ仲でもなし……』と、ごくあつさり言うとお客さんが喜んでくださいますね。受けようとしてここをきちんと言つてワァーッと受ける芝居は好きじゃないんです。呟くように、気をつけないとわからないくらいに言つて、お客さんが少し遅れて氣づいてクスツと笑う。それがいいんですね。押しつける芝居は嫌いなんです」

それこそが上方の女方。芸の真髄と言えるだろう。

「あの入れ事は松嶋屋だけのものなのに、坂田藤十郎の兄さんが伊左衛門のときも『あれ言うてえな』と頼まれて（笑）、言つてます。

幕切れも、伊左衛門の勘当が解けて夕霧の

身請けのお金の千両箱がたくさん届く。大勢でおめでとうと賑やかに幕となるのがうちの型で、成駒屋型は夕霧と二人きりで幕を閉めるんですが、やっぱり藤十郎兄さんは賑やかなのがいいとおっしゃって、千両箱を積み上げておられます。

上方の芝居は型があり過ぎるほどたくさんあつて型にはまることを嫌うので、毎日少しずつ違つたりしてますから、二十五日間つとめていてもいつも新鮮ですよ。

後輩たちには、たくさんある上方の型をよく知つてもらつて、選択しながら継承していつてほしいものですね」

秀太郎さんは、後進の指導のためなら決して労をいとわない。

平成九年の春、大阪松竹座が新開場したのと同時に発足したのが「松竹上方歌舞伎座塾」。

「当時の永山松竹会長に、上方歌舞伎の役者

をあなたが教えて育てなさいよ、と言われて、嬉しくて涙が出ました。第一期生は八人。張り切って教室になる松竹座の稽古場に集合させて、君たちは歌舞伎が好きなの？ と訊いたら、観たことありません、つて言うじゃない（笑）。一人だけ子役に出てた今の片岡千次郎がいきましたけど、あとの七人は中学を卒業したばかりの普通の男の子。しかし彼らは何も知らない白紙の状態でしたから、かえって教えやすくて、教えることが私の生き甲斐になりました。

授業は、着物の着方、立ち座り、化粧、立廻り、踊り、義太夫、長唄、常磐津、清元、歌舞伎の実技のほかに、お茶、お花、お針までありました。講師代表は藤十郎兄さん、私は主任講師、養子の愛之助も助手として手伝ってくれて、お父さんの教え方は高等過ぎる、と言って、塾生と年齢の近い愛之助が通訳のような形で間に入ってくれました。それで彼もいろんなことを教わった、と言っています」

秀太郎さんの楽屋でまめまめしく立ち働くりき彌というお弟子さんも、上方塾の一期生だそうだ。

「あの子は、自分は役者に向いてないからとそのうち塾をやめるつもりでいたの。ところが一年目の研修発表会で『絵本太功記』『十段目』の初菊で、赤姫の衣裳で化粧かおをして出てきたら、これが綺麗でね、お客様がワーッと沸いて拍手が来たんですよ。このジワは一生忘れません、つて感動して、これから絶対頑張る、つて決心したんです」

塾生から秀太郎さんに入門したのは、千志郎、千壽郎、りき彌の三人。そのほか、藤十郎、我當、仁左衛門、竹三郎、吉弥などにそれぞれ弟子入りし、この上方歌舞伎塾は三期生まで続いて上方歌舞伎隆盛のために、非常に貢献している。

最近また秀太郎さんに一つ生甲斐が加わった。松竹の子役養成機関「寺子屋」の演技指

導講師の役を引き受けたのだという。

「男女四十人の子供さんを募集したら、四百人も応募があつて、結局十二人のクラスが四つ、四十八人でスタートしました。歌舞伎座の稽古場が教室で、演技指導は梅玉さんと私が担当です。

初めて行ったとき、『おじさんは五歳のときから役者してるんだよ、今七十二歳だから、何年になるかなあ』って。みんなキョトンとしてびっくりしてた（笑）。まず、『あい、あい』という子役の発声を教えてみたけど、なかなか言えないで泣き出しちゃう子もいた。『いいんだよ、ウサギさんもカメさんもあるんだから。カメさんはゆっくり歩けばいいし、ウサギさんは昼寝しないで走ればいいんだから』なんて言つてね。帰るとき、『おじちゃん、また来てねえ』なんて言われて、可愛らしかった（笑）。

あの子たちに種まきだけでもしときたいな、と思つてます。大人になって、ああこれなん

だと思ふことがあれば、それでいいんですから」

一年のうち一か月しか休みを取らないという秀太郎さんは、芝居どつぷりの毎日。従つて歌舞伎の知恵の宝庫と言える。

近ごろ舞台で活躍が目立ってきた十代二十代の若手たちは、わからないことがあると松嶋屋の楽屋をのぞいて、すぐにその場が「秀太郎塾」となる。

歌舞伎の将来のために、今や秀太郎さんは実に貴重な存在だ。

（この項おわり）



# 浄土誌上句会

● 円

〈特選〉水玉が少し楕円の水着かな

工藤 掉

水玉模様というのは、時を置いてはまたはやるといふ気がするが、今はどうだろう。この水着は完全な水玉でなく、円に近い楕円だという。流行そのままでなく、似て非なところを選ぶということが好みなのだ。

〈佳作〉円空の残せし素刻夏の宿

森 懐人

大空に円画く鳶や雲の峰

井村善也

大花火円盤のごと広がりぬ

浜口佳春

● 卓

〈特選〉卓袱台を畳めば寢床夏の雨

井草 芳郎

ワンルーム・マンションを思い浮かべればよいのだろう。普段は畳んでおいたちゃぶ台を、食事の度ごとに出す。寝る時はそこが寝

床になるのである。一棟のどの部屋も、そういう生活を続けているのだらう。

〔佳作〕 卓ごとに冷やし中華の食べ残し

内藤隼人

窓に月卓上に置く虫めがね

増田信子

一輪の薔薇食卓の中心に

石原 新

●自由題

〔特選〕 終りなきごととき点滴蟬しぐれ

池田 伊吹

経験のある人なら誰でもそう思うに違いな  
かろうが、点滴のためにじっとしている時間  
は、正に「終りなきごととき」である。見ら  
れていない時など、早くしてやろうかと思う  
ほどだ。切れ目もなく蟬が鳴いている。

〔佳作〕 七月や東京駅は鳩ばかり

鳥羽 梓

川の面に降りて明るき夏の雨

篠田理香

花合歡や門灯淡き色こぼす

吉崎美和子



# 兼題 昔飯 自由題

浄土誌上句会の  
お知らせ

## 誌上句会〈編集部選〉

### ■円

夏海棗円の皿の豆カレー  
付け髭を百円で買う夏の暮  
理論上虹は円環夫婦旅  
円高にわれ縁なかり風薫る  
水馬円を描きつつ果てしなく  
合飲の花淋しき者の夢円か  
円満な家庭で育つ油虫  
円筒を抜けて夏空深くあり  
円陣のまんなかに置く炎暑かな  
地に円を描けば始まる夏休み  
アイスクリームだんだん前方後円墳  
鳥羽 梓  
月島恭子  
内藤隼人  
佐藤雅子  
早乙女喜栄子  
當間あさ子  
斉田 仁  
横溝貴文  
小林苑を  
笠井亜子  
山田箏曲

### ■卓

食卓は賑々しかりさくらんぼ  
雀卓を囲みし友ら逝きて秋  
卓上のごろり西瓜は八等分  
食卓の河原撫子乱れ咲く  
卓球をしてから滝を見に行こう  
虹海に墜つ食卓の塩胡椒  
食卓に冷麦だけがでんとある  
蠅飛んで鬱なる卓上計算機  
その男卓論を吐く野の薊  
雀卓に白布の掛かる薄暑かな  
佐藤雅子  
森 懐人  
早乙女喜栄子  
當間あさ子  
遠田奈美子  
沼田曜子  
小林希子  
大森泰三  
柏木貞華  
西原天氣

### ■自由題

念仏を聴きつつ眺む花菖蒲  
諍いつ終の棲家の夏長し  
忘れ傘束ね卯の花腐しかな  
往き悲し念仏篤し総代よ  
ときめきの彩染めあげし醉芙蓉  
整列の鉢を眺める端居かな  
昼寝より覚めてしばらく鳥である  
甘藍を剥いてめまいのような昼  
ひらがなで書かれて夏の木の名前  
隣人の庭より来たり半夏生  
練乳の雪崩れて静かき水  
駅弁の蓋の飯粒梅雨長し  
佐藤雅子  
森 懐人  
早乙女喜栄子  
當間あさ子  
笠井亜子  
水樹 愛  
渥美亜希子  
月島 篠  
鈴木真理子  
水野亜由美  
秋山愛梨

締切・二〇一四年十月二十日

発表・『浄土』二〇一四年十二月号

選者・増田河郎子（『南風』主宰）

### 応募方法

●いずれの題とも数の制限はありません。

●特選各1名・佳作各3名

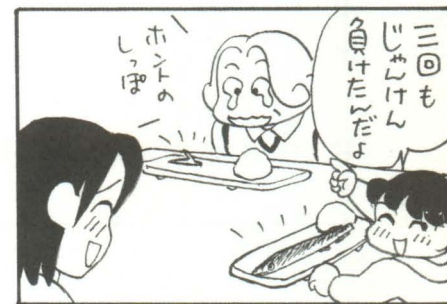
葉書に俳句（何句でも可）と、住所・氏名を必ずお書き下さい。

宛先

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内  
月刊『浄土』誌上句会係

# さっちゃんねネッ

かまち♡ひろう



いつまでも泣きつ面に雨の九月 岱潤

最近政治の世界が物騒だ。八月札幌市議会議員の金子快之氏が自身のツイッターで「ヘイトスピーチ（差別扇動表現）を行っている在特会の言い分はわかる」とか、「アイヌ民族なんていういない」などという差別発言を繰り返して、さすがに自民党の札幌支部連合会からは除名になつてゐるが、九月に入つたら今度は第二次安倍改造内閣で目玉となつた女性閣僚の総務相高市早苗議員と自民党の政調会長稲田朋美議員ら国会議員三人が、日本のネオナチ「国家社会主義日本労働党」の代表とのツーショット写真がその団体

のホームページにのり、イギリス、フランス、アメリカなどで大問題になつてゐる。元々極右で知られるお二人だが、ナチスを標榜する団体の代表との仲よさそうな写真は、欧州では即刻辞任だそうだし、しかし現代の日本では、その責任を問われることすらないし、またほとんどのマスコミもそれを伝えていない。

一九九五年文藝春秋発行の「マルコポーロ」という雑誌で、「ナチ『ガス室』はなかった」という日本人医師の論文を掲載し、アメリカのユダヤ人権団体より激しい抗議を受け、その広告主に掲載停止を要請され、文藝春秋は「マルコポーロ」を廃刊にしている。

一九九五年文藝春秋発行の「マルコポーロ」という雑誌で、「ナチ『ガス室』はなかった」という日本人医師の論文を掲載し、アメリカのユダヤ人権団体より激しい抗議を受け、その広告主に掲載停止を要請され、文藝春秋は「マルコポーロ」を廃刊にしている。

日本人はユダヤ人が遠い存在過ぎるのか、余りにこのことに無知であり、人種差別の問題に理解が出来ていないといえるだろう。人権意識がどんどん阻害されていくような気がする。（長）

編集チーフ 長谷川岱潤  
編集スタッフ 斎藤光道  
佐山哲郎  
青木照憲  
村田洋一

雑誌『浄土』  
特別、維持、賛助会員の方々

飯田実雄(駒ヶ根・安楽寺)  
巖谷勝正(目黒・祐成寺)  
魚尾孝久(三島・願成寺)  
大江田紘義(仙台・西方寺)  
加藤昌康(下北沢・森厳寺)  
加藤亮哉(五反田・専修寺)  
熊谷靖彦(佐賀・本應寺)  
衆原恒久(川越・蓮馨寺)  
佐藤孝雄(鎌倉・高德院)  
佐藤成順(品川・願行寺)  
佐藤良純(小石川・光園寺)  
東海林良雲(塩釜・雲上寺)  
須藤隆仙(函館・称名寺)  
高口恭行(大阪・一心寺)  
中島真成(青山・梅窓院)  
中村康雅(清水・実相寺)  
中村瑞貴(仙台・愚鈍院)  
野上智徳(静岡・宝台院)  
藤田得三(鴻巣・勝願寺)  
堀田卓文(静岡・華陽院)  
本多義敬(両国・回向院)  
真野龍海(大本山・清浄華院)  
拙 博之(網代・教安寺)  
水科善隆(長野・寛慶寺)  
(敬称略・五十音順)

ホームページ <http://jodo.ne.jp>  
メールアドレス [hounen@jodo.ne.jp](mailto:hounen@jodo.ne.jp)

**浄土** 八十巻十月号 頒価六百円  
昭和十年五月二十日第三種郵便物認可 年会費六千円  
印刷 平成二十六年九月二十日  
発行 平成二十六年十月一日

発行人 佐藤良純  
編集人 大室了皓  
印刷所 株式会社 シーティーイー  
〒一〇五〇〇〇一  
東京都港区愛宕四・七・四明照会館内

発行所 **法然上人鑽仰会**  
電話 〇三三五七八六九四七  
FAX 〇三三五七八七〇三六  
振替 〇一八〇・八・八二八七

# 泰雲の

文と写真

# 美味探訪

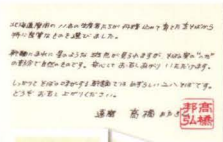
浄土真宗東京東本願寺派  
光徳寺・平井泰雲尼  
茶道歴30年



## 蕎麦の名人・『翁達磨の二八蕎麦・つゆセット』 高橋邦弘氏の『翁達磨の二八蕎麦・つゆセット』

ゆく秋をしのびつつ「落花流水にしたがう」。茶事では10月は1年の終わりにあたり、しみじみ名残りの風情を味わいます。この名残りの風情にピッタリの蕎麦の紹介です。それも名店『翁』。達磨こと高橋邦弘氏の蕎麦を自宅でいただける幸せを堪能ください。

東京・豊島区南長崎から山梨の長坂のお店、そして年末には東京永田町の『黒澤』に高橋氏が打つ年越しの蕎麦をいただきましたが、数年前、良い蕎麦を探して広島に移られてからは、身近に高橋氏のお蕎麦を食することが難しくなっていました。そこで、高橋氏の監修のもと誕生した乾麺「翁達磨二八蕎麦・つゆセット」の登場です。北海道摩周湖近隣の11名の生産者が育てた玄蕎麦を石臼で丁寧挽き、つゆは高橋氏のお店と同様のレシピをもとに作られた香り高い逸品。是非、蕎麦の甘み・香り・喉ごしを自宅で堪能してください。



6食セット 3780円

8食セット 5400円

※価格やセット内容は予告なく変更させていただく場合がございます。

注文先

CONCENT コンセント株式会社

〒106-0047 東京都港区南麻布5-2-32-2F

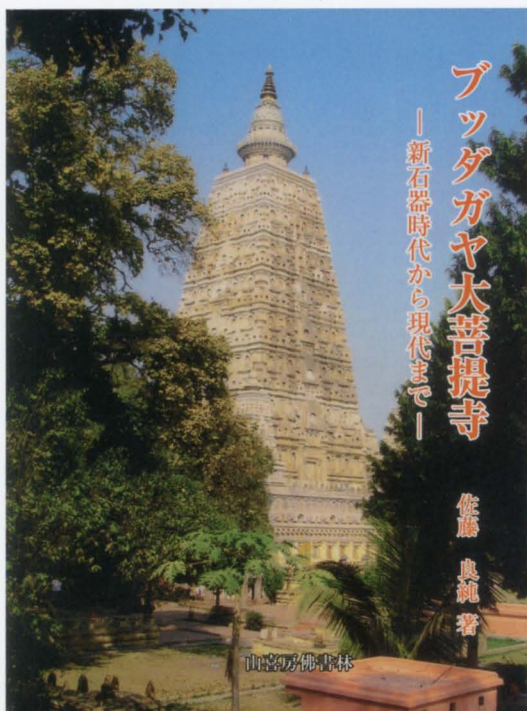
フリーダイヤル：0120-503-727（～19時 年中無休 ※臨時休業日を除く）

ホームページ [www.concent.co.jp](http://www.concent.co.jp)

大好評、在庫僅少！

# ブッダガヤ 大菩提寺

佐藤良純 著



ブッダガヤ大菩提寺  
—新石器時代から現代まで—

佐藤 良純 著

山喜房佛書林

ブッダガヤの歴史  
全貌が明らかに！

山喜房佛書林

本体2000円